

令和3年度 榎島ひいらぎ子ども園事業報告書

1 成果と課題

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止の取組状況

前年度に新型コロナウイルスの感染による「休園」を体験したことを踏まえ、濃厚接触者を出さないための対策に徹底して取り組んだことにより、「休園」や「学年・クラス閉鎖」という事態を招くことなく、1年を終えることができた。



① 行事について

○遠足 「緊急事態宣言」により、予定していた遠足の延期を余儀なくされたものの、子どもたちの楽しみにしている気持ちを尊重したいという思いから、時期や場所を変更する形で実施に至る。



◎プール遊び 昨年度できなかったプールにおける水遊びを再開した。ただし、密を避けるために、学年ごとではなく、クラス単位で入ることとした。これにより、監視の人員に多くを割くことになったが、広く使えることで、活動が存分に楽しめるという意見が聞かれた。

◎お泊り保育（年長） 予定より1か月実施をずらしたことで、ちょうど感染が収まっていた時期と重なり、全行程、予定通り実施することができた。



◎運動会 昨年度と同じ対応をとることで混乱なく実施することができた。全学年（2部制）参加で実施。日差しが強く気温の上昇が予測されたので、保護者席にテントを設けるという対策をとったことで、保護者から観戦しやすかったという声が多く聞かれた。同法人ひいらぎ子ども園からのテントの提供が大変助かった。



◎作品展 昨年度に培ったノウハウを生かし、感染対策を取りつつ、子どもたちの「作りたい！遊ばたい！」が存分に確保できる内容を考え、展示場所や期間を工夫することにより、多くの方に観ていただくことができた。

◎コスモス発表会 「まん延防止重点措置」が出され実施が危ぶまれた「コスモス発表会」だったが、園内での感染者がほぼなかったことから、幼児クラスの発表を「完全入れ替え制」で実施。昨年度が、年長クラスのみであったことから考えると、幼児クラス 3 学年の様子を保護者にライブで観てもらうことができた。乳児クラスについては、昨年度同様に、普段の様子を動画で配信。



◎お別れ遠足（年長）「まん延防止重点措置」の延長により、卒園式の後での実施という異例の形とはなったが、天候にも恵まれ、1年を通して取り組んできた「忍者」の集大成として、太秦映画村での体験は、楽しい思い出とすることができた。

◎いちごがり遠足（年中）昨年度同様コロナの感染予防という観点から、現地でいちごを食べることは避け、容器に入れて持ち帰るという方法で実施。その場で、食すという醍醐味にはかけるものの、おうちの人と食べる喜びとして、楽しめたと好評だった。

▼実施できなかった行事

- ・夏祭り
- ・保育参加
- ・学級懇談会（しずく組・うみ組）
- ・演劇鑑賞

《まとめ》今年度より、法人所有のバスを利用できることで、突然の予定変更が可能となり、1年間を通じて、コロナ禍においても、他学年にわたり、園外での活動を楽しむことができたのは有益だった。行事を通して、子どもたちが学ぶことは多く、確実に成長のステップとして有効に作用すると考える。また、保護者においても、コロナの感染拡大を心配しつつも、子どもたちの様子を見たい・知りたいという思いが強いことを感じる。感染対策を講じながら、出来る限りその思いにこたえていくことも必要だと思う。

また、行事における計画・立案・実施において、昨年度に学んだコロナ対応を、職員の多くが、今年度に活かしていることを感じた。行事が、子どもたちを成長させるのに、大きな役割を持つことは今更、言うまでもないのだが、一つの行事に向けてベテランや若手が試行錯誤する中から生まれてくる「学び」が職員全体のレベルアップにつながると感じた。

（2）職場環境の改善の取組

◎全体職員会議

職員間の意思疎通を図るということは、保育・教育がうまく機能していく上で欠かせない要素だと考え、今年度、新年度準備の日に、職員全員参加の職員会議を行った。正職とパート職員といった雇用状態の違いや、保育者と保育者以外といった職種による違い、年齢や性別といった違いから生じる「壁」は存在し、その壁を高く・厚くしているものをできるだけ取り除き、より低く、より薄くしていく努力をすることで、少しでもみんなが気持ちよく楽しく働ける環

境を作ることができるのではないかと考えた。全職員で、顔合わせし、新年度にむけて、どのような運営方針で進めていくかについて、認知してもらう機会を設けた。それほど多くの時間を割けないため、深まるまでには至らないものの、一つの契機にはなったかと思う。年間を通して3回実施した。

◎コロナワクチンの職域接種

宇治市の支援もあり、一般より早くワクチンの接種が可能となり、ほとんどの職員のワクチン接種がすすんだこと、また、副作用で体調不良があった場合、「コロナ休暇」というかたちで、保証したことで職員の安心を高めることができた。

◎有休取得の促進

指導教諭をフリーに置き、有給休暇を安心してとれるようにした。これにより、土曜日出勤の代休と合わせて、休みやすい雰囲気ができ、若い職員も有休がとりやすくなってきたと思う。ただ、土曜日出勤の代休消化だけで、毎日複数の職員が休むこととなり、これに加えて有休をとることは現実的に難しく、有休消化率が低いことが課題としてある。

2 施設運営方針の実施状況

- (1) 感染予防のための環境整備と行事の見直しを行い子どもたちに安全で楽しい生活を提供する⇒◎
- (2) 保育者の力量を高め、的確な保護者支援を行うことで、児童虐待の予防・啓発につなげていく。⇒○
- (3) 支援を必要とする子どもの教育・保育の充実を目指し、発達障がいの子どもの焦点化した指導を行う。⇒○
- (4) 保育教諭・栄養教諭・看護師の専門性を高め、仕事に自信とほこりを持てるように、キャリアアップ研修への積極的な参加・園内研修の充実を図る。⇒○
- (5) 国のガイドラインに沿った事故防止・健康安全対策及び災害対策を強化し、子どもの命を守るためにより安心安全な環境作りに全職員で取り組む。⇒○
- (6) 栄養教諭・栄養士を中心に、子どもの育ちにおける課題を明確にして食育計画を進め、食育のさらなる充実を図る。⇒△

3 年間教育・保育日数

1号認定	238日（年長は240日）
2・3号認定	291日（年長は292日）

4 利用者数

(1) 槇島ひいらぎこども園 在園児数

歳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳	短時間	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	3	3
	標準	13	13	13	14	14	14	13	13	13	12	12	12
1歳	短時間	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	4
	標準	28	28	28	28	28	28	28	28	27	27	27	27
2歳	1号	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1
	短時間	2	2	2	2	2	2	2	2	5	6	6	8
	標準	30	30	30	30	30	29	29	29	26	25	25	23
3歳	1号	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	短時間	6	6	6	5	5	5	6	6	6	6	7	7
	標準	29	29	29	30	31	31	29	29	29	29	28	29
4歳	1号	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2
	短時間	3	3	3	3	3	3	3	3	5	5	5	5
	標準	33	33	33	33	33	33	33	33	31	30	30	30
5歳	1号	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4
	短時間	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4	4	5
	標準	32	32	32	32	32	32	32	32	32	30	29	28
合計		188	188	188	189	190	190	189	189	189	189	189	190
平均在園率(%)		101	101	101	102	102	102	102	102	102	102	102	102

(2) 一時預かり事業利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数(人)	1	7	10	17	25	16	26	29	21	22	25	42
保育日数(日)	21	19	22	20	17	20	22	20	20	18	18	21
1日平均(人)	0.05	0.37	0.45	0.85	1.47	0.8	1.18	1.45	1.05	1.22	1.39	2.0
合計	241人(1日平均1.01人)											

(3) 子育てサポート事業

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一時預かり (人)	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2
園庭開放 (組)	2	2	2	0	1	1	8	1	2	5	6
計	2	2	2	0	1	3	9	1	2	5	8
総計	35組										

① 未就園児一時預かり（月1回土曜日）利用者数 5人

② 園庭開放（毎週火曜日）年間利用者数 30組

- ・遊びに来た際に、園内の見学を希望されることが多い。
- ・園庭に出ている在園児に交じって遊ぶ姿がみられる。
- ・子育ての悩みや入園の相談をされることもある。

5 職種別職員数（令和4年3月31日現在）榎島ひいらぎこども園

	園長	副園長	主幹 保育教諭	指導 保育教諭	保育 教諭	保育 補助	看護 師	栄養 士	調理 師	警備 員	事務 員	保全 員	ボラ ンティア	合計
正規職員	1	1	1	1	25	0	1	2	0	0	0	0	0	32
パート職員	0	0	0	0	14	8	0	0	2	1	1	2	1	29
合計	1	1	1	1	39	8	1	2	2	1	1	2	1	61

（正規職員のうち1名が産休）

6 年間行事実施内容（資料 榎1）

7 小学校との接続

(1) 連携行事の中止等

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入学式・卒園式等の儀式的行事の参列をはじめ、運動会や参観といった行事のすべてにおいて、中止や縮小がされ、交流を持つことができなかった。

(2) スムーズな就学に向けて

① 情報交換と共有

年長児においては、「教育相談」を受けた園児について、小学校の支援コーディネータの先生と数回にわたり、情報交換するなどしてきた。これをもとに、「普通級」「支援級」「支援学校」といった進路について、『支援シート』も活用しながら、保護者の意向を交え、その子一人一人に応じた進路について、共に考える機会を持ってきた。また、年度終わりに、就学先の各小学校と連携するための時間をとってきた。ただ、コロナ禍により、訪問ではなく、電話や文書で行なった学校も数校あり、細かいやり取りが十分できなかった点については、残念だった。

② その他

○園だよりの発送（月1回）

榎島小学校からの学校だよりが届かなくなっている。

8 職員研修内容

(1) 園内研修

令和3年6月18日（金）13時30分～14時45分 9名
7月9日（金）13時15分～14時30分 7名
8月4日（水）13時15分～14時30分 9名
DVD鑑賞後 グループディスカッション



*3日間のいずれかを受講

フレーベル館DVD この“ワクワクしかけ”がすごい!!やる気が楽しい」保育のヒント
編・認定こども園こどものもり 協力・汐見稔幸

受講者 3日合わせて 保育教諭 25名

(2) 派遣研修（資料 榎2）

令和3年度 キャリアアップ研修修了者数 のべ18名

9 安全衛生委員会

議長	副園長	杉浦 京子
産業医	一般社団法人ストレスフリー未来研究所理事・産業医 株式会社 Dr 健康経営・産業医	岡本 洋平(9月まで) 大森 直美(10月以降)
衛生管理者	園長 看護師	宇野 智子 尾谷 加奈
委員	主幹保育教諭	山本 容子

(1)委員会 月1回会議開催。面談希望者なし。

(2) ストレスチェックを実施。

①実施日 令和3年10月18日(月)～10月25日(月)

②委託業社 NPO 法人メンタルサポート京都

③受検者 58名(正規職31名 非正規職員27名 受検率98.3%※1名無記名あり除外)

④結果

今回は同委託業者による3回目のストレスチェックであった。総合健康リスクは、102で全国平均を100とした値に比べ、2ポイント健康リスクが高いが去年と比べて9ポイント改善していた。内容的には「仕事の量的負担とコントロール」の評価は105で5ポイント改善、「職場の支援」は98であり3ポイント改善していた。「正規」「非正規」の雇用形態別でみると、正規職員は昨年度より総合健康リスクは101と7ポイント改善し、非正規職員は12ポイントも改善し同値であり、正規職員と非正規職員間の差がなくなった。なかでも非正規職員の「職場の支援」が昨年度より8ポイント改善し、職場のサポート体制が良くなっていると感じている職員が増えた。「乳児担当」「幼児担当」の業務分野別でみると、去年と結果が逆転し「心理的な仕事の負担」が量・質ともに幼児担当の方がストレスを感じていることがわかった。また年代別でみると、どの年代においても「自覚的な身体的負担度」「心理的な仕事の負担(量)」の値が高かったが、年代が低くなるほどストレスが高い傾向で24歳以下が一番高かった。全体の中で「高ストレス」と判定されたのは7名(12.3%)で去年の11名(19.6%)に比べて減少しているが、うち4名は去年に続いて「高ストレス」の判定であった。離職者は計6名で年度途中の離職者が2名(メンタル面の理由と身体的病気理由)、年度末での離職者は4名(全員自己都合の理由)であった。正規職員1名がメンタル面の不調で年度途中で本園へ異動となった。

⑤メンタルサポート京都から職場改善についての提案

- ・サポート体制の充実・・・去年と比べ「職場の支援」のポイントが改善したが、4割の職員が「同僚からのサポート」がないことにストレスを感じている。サポート体制があるとストレスは緩和されるため、感染対策により職員間の交流がもちにくくなっているため、日々のミーティングを工夫して同僚間の支援を増やすとよい。
- ・休息の確保・・・職員は仕事に働きがいを感じながら頑張っているが、燃え尽きてメンタル不調にならないためには、職員が取りたい時の休暇・休息の確保できるようにする。
- ・相談体制の整備・・・メンタル不調に早く気付いて対策ができる相談体制(カウンセリングなど)の整備が必要。

⑥考察

去年よりストレスを感じている職員が減り、改善計画を立て職場改善の取り組みを実施してきた成果があったと思われる。特に非正規職員が職場のサポート体制が良くなっていると感じ正規職員と非正規職員間の差がなくなったのは評価できる点である。ただし、コロナ禍が続き、職員の心身両面にストレスは依然かかっており、引き続き働きやすい職場づくりをめざして取り組む必要がある。

⑦改善計画

- ・取りたい時にできるだけ有休を消化し、年5日以上を確保する。また土曜日出勤した場合は、協力しあいながら必ず振替休日を取得し、完全週休2日制で休息の確保を促す。各自の年休消化状況をわかりやすく可視化する。
- ・幼児クラスの身体的・心理的負担を軽減するために、幼児フリーの職員を増員する。
- ・引き続き若い年代の職員をクラスリーダーに据え、責任とやりがいを感じ取れるよう担任配置を工夫する。
- ・夕方の延長保育時間帯に引き続き正規職員1名を遅出当番の専属とし、他の正規職員の遅出の当番の回数を減らし身体的負担を軽減する。
- ・乳児・幼児全体を把握できるベテラン職員をフリーに置き、状況に応じて柔軟に対応できるようにする。
- ・個別面談の機会を年2回に増やす事で、職員の抱えている不安を早い段階で把握できるようにする。

10 保健室実績・感染症による欠席状況

(1) 病気早退延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳児	26	27	26	14	13	18	14	6	16	9	13	12	194
幼児	5	11	6	2	5	2	5	3	8	7	6	2	62
合計	31	38	32	16	18	20	19	9	24	16	19	14	256

(2) 感染症による欠席状況 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
インフルエンザ													0
水痘									1	1			2
流行性耳下腺炎													0
りんご病													0
手足口病							3	1					4
溶連菌感染症	1												1
アデノウイルス感染症													0

RSウイルス 感染症	4	6	3		2	1							16
ヘルパン ギーナ					1								1
マイコプラズマ 肺炎													0
ウイルス 性胃腸炎									1			1	2
新型コロナ ウイルス 感染症		2			4					3	6	5	20
合計	5	8	3	0	7	1	3	1	2	4	6	6	46

1.1 課外教室参加者数

(1) ジョニーのサッカースクール（講師 松下 洋亮氏）

（毎週水曜日 午後3時30分～4時30分まで）

参加者：年中12人 年長13人

*ただし 緊急事態宣言発令中は活動を休止

(2) 空手道場（講師 加藤 吉辰氏 加藤 映彦氏）

（毎週火曜日 午後3時30分～4時30分まで）

参加者：年中17人 年長13人

*ただし 緊急事態宣言発令中は活動を休止

1.2 実習生・インターンシップ・ボランティア・体験学習の受け入れ

(1) 保育実習

・令和3年8月17日～8月31日	池坊短期大学	1名
8月18日～8月28日	京都文教短期大学	2名
9月6日～9月17日	京都文教短期大学	2名
9月6日～9月17日	ノートルダム女子大学	2名

(2) 中学生職場体験

*コロナ感染拡大防止の観点から、受け入れができなかったため、中学校からの依頼により、園長が講師として赴き、中学生20人を対象に話をします。

令和3年10月21日（木）10時30分～11時30分 榎島中学2年生 20名対象

中学生のキャリア教育「職場観を学ぶ」

～乳幼児の保育・教育を担う施設の仕事～

(3) 高校生インターンシップ

令和3年7月26日～30日 3名

令和3年8月2日～6日 3名

(4) 子育て支援員養成講座

基本研修 令和3年6月3日・7日 松村

地域子育て支援員研修 令和3年12月2日・5日 松村

1.3 保護者アンケート (資料 槇3)

1.4 地域との交流

*コロナ感染拡大防止の観点から、老人介護施設などの交流はすべて中止してほしいという申し入れがあったため、交流はできなかった。

1.5 教育基金の活用

(1) クリスマスプレゼントの配布

保護者からの援助という形で徴収することとなった「教育基金」の中から、園児にクリスマスのプレゼントを配布。

プレゼントの内容については、各学年の担任が選定する。

ただし、0歳～2歳児クラスについては、「絵本」とし、各学年の担任が選定した3冊の中から、予め保護者に選んでもらった本を用意している。

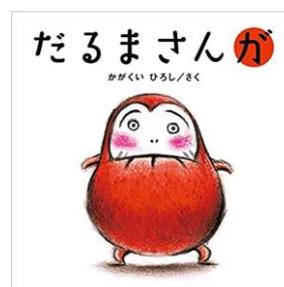
絵本を通して、親子で語り合う時間を持ってもらえればと思う。



しずく組 絵本の選書についてのお願い

今年のクリスマスプレゼントに絵本を考えています。そこで、以下の絵本の中から1冊選んでいただきたいと思います。発注の都合上 11月26日(金)までにお選びいただき、番号もしくは絵本の題名を連絡帳に書いて、お知らせください。

(もちろん これは 極秘プロジェクトです。こっそり お願いします。)



(2) 演劇鑑賞

予定していたが、「まん延防止措置」の発令により、ホールに大勢が集まることができず、中止。(次年度に持ち越し)

(3) 卒園記念品 卒園児を対象に、傘・鉛筆・ランチョンマットを配布。

16 社会貢献

(1) 地域の運動広場の管理と運営（京都府所有の芝生広場の管理）

芝生の散水、除草、芝刈り、施肥、ゴミ等の清掃
地域住民への利用許可等、管理と運営



(2) 地域の避難所としての備蓄品保管

災害用トイレ トイレ用テント
災害用飲料水
クッキー（非常食）
災害用ミルク



17 他企業との連携

*京都文教短期大学を卒業した職員が元ゼミ生であることが縁で、「(仮称)健康未来チャレンジプロジェクト」という取り組みを紹介していただく。コロナ禍ではあったが、屋外での活動という事で実施。

令和3年12月15日(水) 10時~12時 槇島ひいらぎこども園 園庭

○日本新薬の野球部の方と一緒に体を動かして、運動を楽しむ。(ぼうけんひろば)



○日本新薬所有の「きらきら未来号」に搭載された絵本から、好きなものを選び、自分で読んだり、読んでもらうことを楽しむ（くすのきひろば）



18 苦情受付の状況

(1) 令和3年 5月21日（金）10時 地域住民より入電

【内容】自宅前の道路を保護者の車が通る。通らないようにしてほしい。

【対応】警察に確認を取ったところ、『私道ではないので、通行してはならないという規制はかけられない』とのことだった。家の前を通る車のすべてが本園の保護者ではないが、保護者には、安全面からできるだけ、大きな通りを利用してもらうことや徐行運転をお願いするお便りを出すことで納得していただいた。

(2) 令和3年12月1日（水）18時 保護者より

【内容】ぼうけん広場でサッカーをして遊んでいた際、職員が蹴ったボールが顔面に当たって、歯が抜けるという事案に対してのクレーム。歯が抜けた事ではなく、保護者への報告の際、「職員が蹴ったボール」という文言が欠落していたことに対して、説明が不十分ではないかという訴えがあった。

【対応】すぐに担任に連絡し、事実確認したところ、ボールを蹴った職員が保護者に直接報告していたため、誰が蹴ったボールだったかという事は、保護者に伝わっていると勘違いしてしまったことが分かった。そこで翌日、保護者に事情説明と謝罪を行い納得していただく。

19 施設設備

(1) ビオトープ 循環ポンプ修繕

施工日	令和3年4月2～9日
施工業者	橋本電機
事業費	160,215円



(2) くすのきひろば・砂場の土補充・ビオトープ石積み

施工日	令和3年4月9日
施工業者	F-garden
事業費	275,000円



(3) ベランダのカーテン

ベランダの日当たりがよく、夏場は暑いため市販のオーニングをつけていた。開け閉めができず不便なため、カーテンを設置。

施工日 令和3年5月15日(土)
施工業者 株式会社 近畿
事業費 497,200円

改修前



改修後



(4) ベランダの床改修工事

ベランダの床が固い素材で、転倒した際に皮下血腫をおこす事例があり、やわらかい素材に変更した。

施工日 令和3年5月29日
施工業者 ジャクエツ
事業費 1,193,500円

改修前



改修後

